

生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2025年
第72回

秋田県母親大会

と き **6月29日（日）** 午後12:00～午後3:30
と ころ 秋田市にぎわい交流館 AU 3階多目的ホール
秋田市中通1丁目4-1

資料代
800円

大学生以下は無料

記 念 講 演 **渡部雅子さん** 原水爆禁止秋田県協議会事務局長
演 題 「被爆80年・被爆者の声を届けるスペイン・フランス訪問」



秋田市に生まれる。大学ではセツルメントや全教ゼミで活動。大学卒業後は秋田県の高
校の国語教師となる。秋田県高等学校教職員組合書記長、日本高等学校教職員組合女性
部長、秋田県労働組合総連合役員として活躍。
日本母親大会連絡会、日本婦人団体連合会、秋田県母親大会実行委員会の役員などをは
じめ女性団体の役員を務める。
現在、原水爆禁止秋田県協議会事務局長、秋田県年金者組合書記長

特別企画 「土崎空襲を語り継いできて」 **伊藤津紀子さん** （土崎港被爆市民会議）

主催 第72回秋田県母親大会実行委員会

※ 連絡・問い合わせは

TEL FAX 018-828-5888（市外）

母親が変われば社会が変わる！

母親運動のあゆみは
日本の女性運動の歩みです

母親大会の始まりとあゆみ

1954年、アメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島長崎に次ぐ三度目の被ばくに母親たちは怒り、平塚らいてう等5人は全世界に向け「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち6月、第1回母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭坑や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会に河崎なつを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親大会が広がりました。母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題に秋田県でも取り組み、貴重な成果を上げながら毎年大会を開き、70年余をあゆみつづけてきました。

秋田県母親大会は、「母と女教師の会」を出発点として、全国にさがけて開催され、今年第72回大会を迎えます。

世界大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節

「生命（いのち）を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ること
をのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

第70回日本母親大会 in 東京

◎9月28日（日） 日本教育会館 全国教育文化会館

分科会：現地・一部オンライン併用

◎9月29日（月） 東京国際フォーラム・ホールA

全体会：現地・オンライン併用

※参加費等の詳細は後日連絡します。

記念講演

講師 布施悠仁さん フリージャーナリスト

※ 全体会のオンライン視聴会場（秋田市はアトリオン7階研修室）を設けます。

※ 他の地域は各地域母連にお問い合わせください。

※ 問い合わせは 018-893-5233（富田）まで